

栄光製作所 社長 勅使河原 覚氏



挑む

モノづくり ヒトづくり

栄光製作所（群馬県富岡市、勅使河原覚社長、0274・63・2483）は、女性や外国人社員の育成に力を入れている。育成を通じて戦力化する手腕が認められ、2015年度の「新・ダイバシテイ経営企業100選」に選定された。人口減少に直面し、人手不足に悩む地方の中小製造業。人材が定着し、業績の安定を実現した中小企業の人材活用術とは。勅使河原社長に聞いた。（大友裕登）

「プリント基板製造を展開しています。医療機器や自動車向けなどを手がけている。部品・デバイスの接合・実装から組み立て、検査までの一貫生産体制を構築。基本的に多品種少量で事業を展開している」

「人材育成に注力するきっかけは、海外移管が加速し



女性が活躍する栄光製作所の作業現場

た2000年前後、倒た時、突然腰が立たなくなった。産の危機に直面し、自くなつた。その時、あ

女性活躍の現場は、他のスタッフからすると仕事ができないと言われている。人間には必ずいるところがある。自分には無い物ねだりをして、今、いてくれるメンバーが最高の武器であり、それをどう生かすかは自分次第。ど

人への投資 最優先

ポテンシャル見極める

人手不足に拍車がかかる中、中小製造業が労働人口の減少に対応するには、女性や外国人の活用が必須だ。採用から定着、戦力化までの戦略をしっかりと練らなければ、今が良くても未来は危うい。過去の失敗を大きな糧に、**ポイント**で勝ち残りを目指す栄光製作所。日々の省エネ計画を管理するのは女性スタッフで、勅使河原覚社長が抜擢（ばってき）した。無い物ねだりではなく、現有人員の隠れた能力を見極める努力が、企業の競争力を高めている。

プし、自身の思いも共有しやすくなるので、大きな武器になる。教育には時間と金がかかる。機械を買うよりも高いかもしれないが、自分と考え方を共有してくれるための大事な投資だ。最優先は人への投資だ。今後の人材育成で重要な点は、

「少数精鋭で、規模に合った人員を確保しながら育成すると、長く続く企業になれるのではないかと。変に大きくはしたくない。私だけではなく、多くのスタッフが経営意識を持つように、社内で経営者感覚を養っていきけるようにすれば、長く続けられるだろう」

スタッフの経営者意識養成

「声をかけてくれた」

「人材育成で留意していることは、大事なものは、スタッフだけスキルもアツ